

第32回「山形県内企業の景気動向調査」速報

(平成24年8月調査)

～県内景気に停滞の兆し～

【 調査の要旨 】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値(前年同期比)」でみて、7.7(前回調査比 8.9ポイント下落)とDI値はプラスを維持しているも、前回調査と比較して悪化となった。また「自社の業況DI値(前期比)」でみると、3.1(前回調査比 0.7ポイント上昇)と僅かながら回復している。総じて、DI値はプラスを維持しているも、前回調査と比較し前年同期比で悪化していることから**県内景気は停滞の兆しがみられる。**
- **業種別**に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、建設業で 13.9(前回調査比 1.4ポイント上昇)、製造業で 2.0(前回調査比 11.5ポイント下落)、卸・小売業で▲2.5(前回調査比 10.5ポイント下落)、サービス業で 20.5(前回調査比 14.5ポイント下落)と建設業以外で悪化となった。また「自社の業況DI値(前期比)」でみて、卸・小売業で▲5.9(前回調査比 5.9ポイント下落)と悪化となった。総じて業況を判断すると、**建設業は震災復興需要などを背景に上向きつつあるも、製造、卸・小売、サービスの各業種で停滞の兆しがみられる。**
- **地域別**に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、村山南部で 8.7(前回調査比 6.0ポイント下落)、村山北部で 3.4(前回調査比 3.8ポイント下落)、最上で 14.6(前回調査比 8.9ポイント下落)、置賜で 11.9(前回調査比 7.2ポイント下落)、庄内田川で 1.1(前回調査比 14.5ポイント下落)、庄内飽海で 9.1(前回調査比 10.9ポイント下落)となり、**全地域ともDI値はプラスを維持しているも、前回調査と比較して悪化となった。**
- **先行き見通し**は、「自社の業況DI値」が▲7.3(今回調査比 15.0ポイント下落)と、大幅に悪化する見込みとなっている。要因として、依然として**先行き不透明な円相場・原油価格やLNG・電力供給・欧米の経済情勢に加え、個人消費の先行き停滞感などを懸念している結果と考えられる。**

【 特別調査 】

- **設備投資動向**について尋ねたところ、24年度中に設備投資を「実施した」、または「実施する」と回答した企業の割合は 39.6%であり、昨年度調査より 4.0ポイント増加した。要因としてリーマンショック以降先延ばしにされていた設備投資が徐々に増加していることや、震災復興関連の仕事に対応する為の設備投資が増加していることなどが考えられる。

平成24年8月

株式会社 フィデア総合研究所

目次

I. 県内企業の業況.....	1
1. 概況.....	1
2. 業種別の動向.....	2
(1) 業種別の概況.....	2
(2) 業種別DI値の動向.....	3
① 建設業.....	3
② 製造業.....	4
③ 卸・小売業.....	5
④ サービス業.....	6
3. 地域別の動向.....	7
(1) 地域別の概況.....	7
(2) 地域別DI値の動向.....	8
① 村山南部.....	8
② 村山北部.....	9
③ 最上.....	10
④ 置賜.....	11
⑤ 庄内田川.....	12
⑥ 庄内飽海.....	13
II. 景気の天気予報図.....	14
III. 特別調査.....	15
1. 設備投資動向.....	15
2. 設備投資金額.....	17
3. 設備投資目的.....	18
<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>.....	22
<参考資料Ⅱ：調査の概要>.....	22

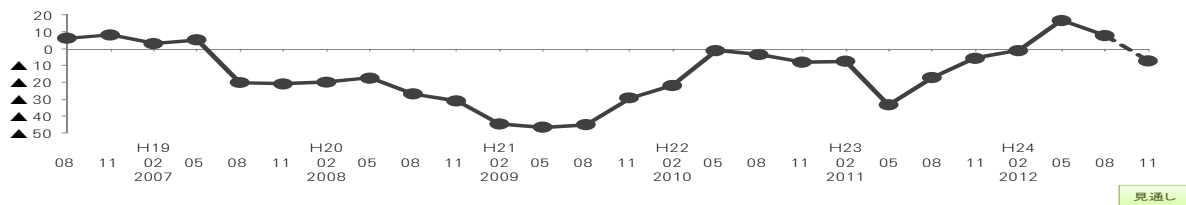
1. 県内企業の業況

1. 概況

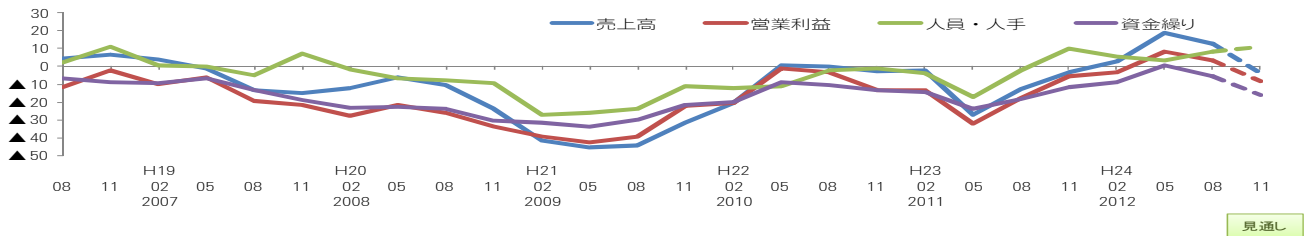
県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況D I 値(前年同期比)」でみて、7.7(前回調査比 8.9 ポイント下落)とD I 値はプラスを維持しているも、前回調査と比較して悪化となった。また「自社の業況D I 値(前期比)」でみると、3.1(前回調査比 0.7 ポイント上昇)と僅かながら回復している。総じて、D I 値はプラスを維持しているも、前回調査と比較し前年同期比で悪化していることから県内景気は停滞の兆しがみられる。「各種D I 値(前年同期比)」でみると、「売上高」が12.8(前回調査比 6.0 ポイント下落)とD I 値が高水準で推移する一方、昨年以降回復を続けてきた「資金繰り」が▲5.4(前回調査比 5.8 ポイント下落)となり、D I 値がマイナスに転じた。

先行き見通しは、「自社の業況D I 値」が▲7.3(今回調査比 15.0 ポイント下落)と、大幅に悪化する見込みとなっている。要因として、依然として先行き不透明な円相場・原油価格やLNG・電力供給・欧米の経済情勢に加え、個人消費の先行き停滞感などを懸念している結果と考えられる。

図表 1 全業種「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



図表 2 全業種「各種D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

山形県 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	全業種	前回調査比	前回調査予測				
H 23.08 (n=500)	▲ 17.2	(16.1)	▲ 37.4	▲ 12.8	▲ 17.6	▲ 2.2	▲ 18.0
H 23.11 (n=497)	▲ 5.8	(11.4)	▲ 15.2	▲ 3.2	▲ 5.8	9.8	▲ 11.9
H 24.02 (n=505)	▲ 1.2	(4.6)	▲ 13.1	2.7	▲ 3.6	5.3	▲ 8.7
H 24.05 (n=505)	16.6	(17.8)	▲ 18.9	18.8	8.0	3.5	0.4
H 24.08 (n=482)	7.7	(▲ 8.9)	▲ 8.1	12.8	3.4	8.3	▲ 5.4
前回調査比	-	-	-	(▲ 6.0)	(▲ 4.6)	(4.8)	(▲ 5.8)
先行き見通し	▲ 7.3	-	-	▲ 3.8	▲ 8.3	11.0	▲ 16.2
今回調査比	(▲ 15.0)	-	-	(▲ 16.6)	(▲ 11.7)	(2.7)	(▲ 10.8)

【参考】前期比の自社業況D I 値

山形県 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前期比)		売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	全業種	前回調査比				
H 23.08 (n=500)	▲ 10.8	(22.1)	▲ 8.6	▲ 14.2	▲ 1.4	▲ 17.6
H 23.11 (n=497)	3.4	(14.2)	11.2	▲ 0.8	9.6	▲ 12.0
H 24.02 (n=505)	▲ 2.2	(▲ 5.6)	1.8	▲ 6.6	5.9	▲ 13.7
H 24.05 (n=505)	2.4	(4.6)	6.6	▲ 4.0	2.7	▲ 5.3
H 24.08 (n=482)	3.1	(0.7)	7.3	1.6	9.8	▲ 6.8
前回調査比	-	-	(0.7)	(5.6)	(7.1)	(▲ 1.5)

※「売上高」D I 値は建設業の「完成工事高」を含んだ数値

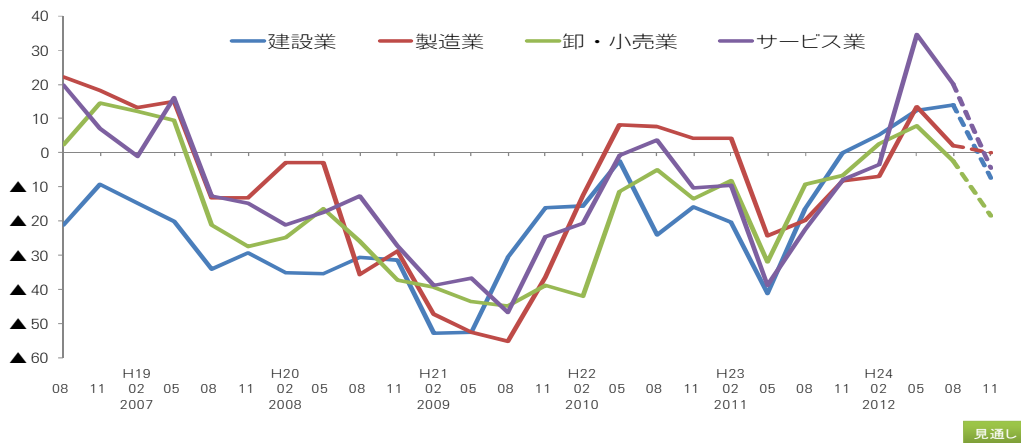
2. 業種別の動向

(1) 業種別の概況

業種別に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、建設業で13.9(前回調査比1.4ポイント上昇)、製造業で2.0(前回調査比11.5ポイント下落)、卸・小売業で▲2.5(前回調査比10.5ポイント下落)、サービス業で20.5(前回調査比14.5ポイント下落)と建設業以外で悪化となった。また「自社の業況DI値(前期比)」でも、卸・小売業で▲5.9(前回調査比5.9ポイント下落)と悪化となった。総じて業況を判断すると、建設業は震災復興需要などを背景に上向きつつあるも、製造、卸・小売、サービス業で停滞の兆しがみられる。

一方で、業況の先行き見通しは全業種で下落の見通しとなっており、特に建設業やサービス業の悪化幅が大きい。

図表 3 業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

業種別 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.08 (n=500)	▲17.2	▲16.4	▲19.8	▲9.2	▲22.5
H 23.11 (n=497)	▲5.8	0.0	▲8.1	▲6.7	▲7.9
H 24.02 (n=505)	▲1.2	5.3	▲7.0	2.5	▲3.5
H 24.05 (n=505)	16.6	12.5	13.5	8.0	34.5
H 24.08 (n=482)	7.7	13.9	2.0	▲2.5	20.0
前回調査比	(▲8.9)	(1.4)	(▲11.5)	(▲10.5)	(▲14.5)
先行き見通し	▲7.3	▲7.4	0.0	▲18.5	▲4.6
今回調査比	(▲15.0)	(▲21.3)	(▲2.0)	(▲16.0)	(▲24.6)

【参考】前期比の自社業況DI値

業種別 調査時(サンプル数)	自社業況(前期比)				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.08 (n=500)	▲10.8	▲18.2	▲7.6	▲5.9	▲13.3
H 23.11 (n=497)	3.4	9.3	2.0	▲2.5	5.3
H 24.02 (n=505)	▲2.2	▲0.8	▲5.0	▲2.5	0.9
H 24.05 (n=505)	2.4	2.7	▲0.6	0.0	8.9
H 24.08 (n=482)	3.1	5.6	1.3	▲5.9	12.7
前回調査比	(0.7)	(2.9)	(1.9)	(▲5.9)	(3.8)

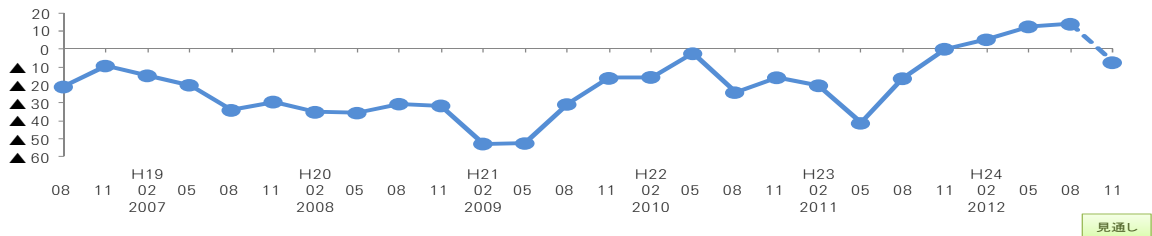
(2) 業種別D I 値の動向

① 建設業

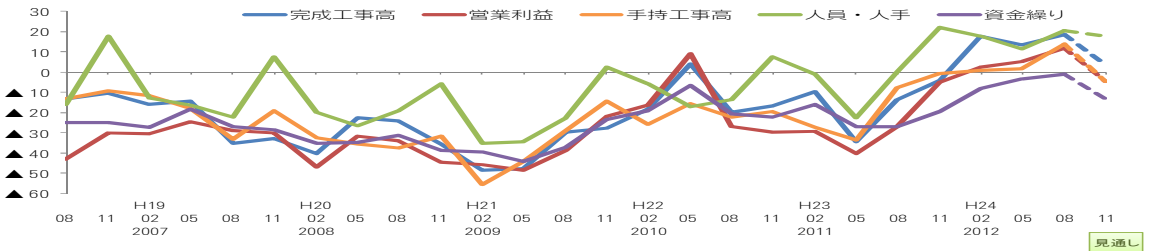
「自社の業況D I 値(前年同期比)」は13.9(前回調査比1.4ポイント上昇)と5期連続の回復となり、4期連続でD I 値がプラスとなった。また「自社の業況D I 値(前期比)」でも、5.6(前回調査比2.9ポイント上昇)と回復しており、企業によってバラツキはあるものの、復興関連需要などが回復の要因として考えられる。「各種D I 値(前年同期比)及び(前期比)」でも、すべての項目において回復がみられた。また「人員・人手」は20.4(前回調査比8.8ポイント上昇)と一時はやわらっていた不足感が再び上昇している。震災復興工事等のために労働力が被災地へ向かっており、復興関連需要が更に本格化してきた結果とも考えられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況D I 値」が一転して▲7.4(今回調査比▲21.3ポイント下落)となっており、公共工事の減少傾向、人件費や材料費等の高騰による利益圧迫などを懸念している結果と考えられる。

図表 4 建設業「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



図表 5 建設業「各種D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

建設業 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)		完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り	
	前回調査比	前回調査予測						
H 23.08 (n=104)	▲ 16.4	(24.8)	▲ 58.0	▲ 13.4	▲ 27.0	▲ 7.7	0.0	▲ 26.9
H 23.11 (n=118)	0.0	(16.4)	▲ 33.7	▲ 4.2	▲ 5.1	▲ 0.8	22.0	▲ 19.5
H 24.02 (n=113)	5.3	(5.3)	▲ 18.6	17.7	2.6	0.9	17.7	▲ 8.0
H 24.05 (n=112)	12.5	(7.2)	▲ 38.9	13.4	5.4	1.8	11.6	▲ 3.5
H 24.08 (n=108)	13.9	(1.4)	▲ 19.6	18.6	12.0	13.9	20.4	▲ 0.9
前回調査比	-	-	-	(5.2)	(6.6)	(12.1)	(8.8)	(2.6)
先行き見通し	▲ 7.4	-	-	3.7	▲ 4.6	▲ 4.6	17.6	▲ 13.0
今回調査比	(▲ 21.3)	-	-	(▲ 14.9)	(▲ 16.6)	(▲ 18.5)	(▲ 2.8)	(▲ 12.1)

【参考】前期比の自社業況D I 値

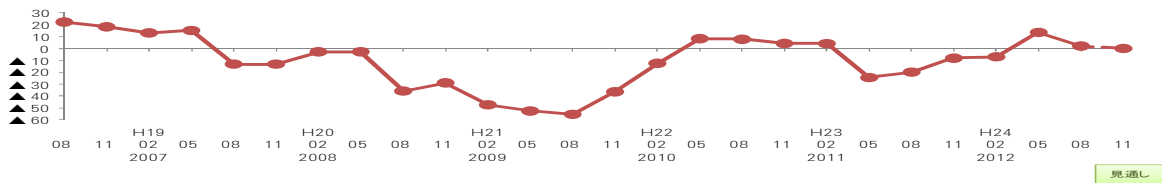
建設業 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前期比)		完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測					
H 23.08 (n=104)	▲ 18.2	(16.2)	▲ 17.3	▲ 29.8	▲ 9.6	1.0	▲ 27.9
H 23.11 (n=118)	9.3	(27.5)	16.1	▲ 4.3	10.2	24.6	▲ 14.4
H 24.02 (n=113)	▲ 0.8	(▲ 10.1)	12.4	0.0	▲ 5.3	18.6	▲ 16.8
H 24.05 (n=112)	2.7	(3.5)	5.3	▲ 7.2	▲ 2.7	12.5	▲ 10.7
H 24.08 (n=108)	5.6	(2.9)	5.6	3.7	14.8	26.9	▲ 5.6
前回調査比	-	-	(0.3)	(10.9)	(17.5)	(14.4)	(5.1)

② 製造業

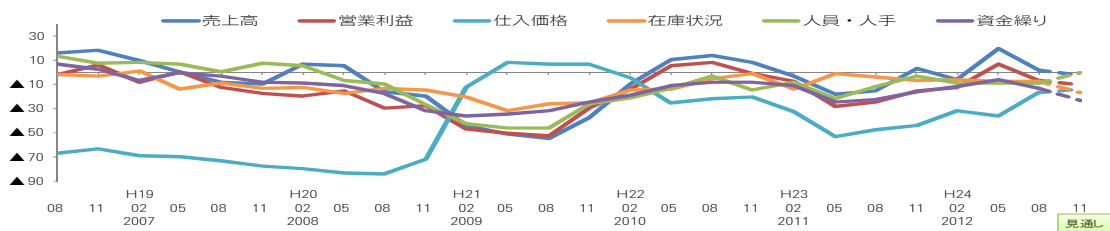
「自社の業況D I 値(前年同期比)」は 2.0(前回調査比 11.5 ポイント下落)とD I 値はプラスを維持しているも、前回調査と比較して悪化となった。また「自社の業況D I 値(前期比)」でみると、1.3(前回調査比 1.9 ポイント上昇)と僅かではあるが回復となった。「各種D I 値(前年同期比)」でみると、「売上高」以外の項目すべてでD I 値がマイナスとなった。マイナス要因として依然として続いている円高やデジタル家電の需要減少、また原材料等の高騰などが考えられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況D I 値」が 0.0(今回調査比 2.0 ポイント下落)と僅かではあるが悪化の見通し。一部の企業では底堅く推移する見込みであるものの、全体でみると先行き不透明な円相場などを懸念している結果と考えられる。

図表 6 製造業「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



図表 7 製造業「各種D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

製造業 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員 人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
H 23.08 (n=157)	▲ 19.8	(4.6)	▲ 23.2	▲ 15.9	▲ 24.8	▲ 47.8	▲ 3.9	▲ 12.1	▲ 23.0
H 23.11 (n=147)	▲ 8.1	(11.7)	▲ 6.3	2.7	▲ 15.7	▲ 44.2	▲ 6.8	▲ 3.4	▲ 16.4
H 24.02 (n=158)	▲ 7.0	(1.1)	▲ 15.6	▲ 6.3	▲ 12.7	▲ 32.3	▲ 6.4	▲ 8.9	▲ 12.0
H 24.05 (n=155)	13.5	(20.5)	▲ 16.5	19.4	6.4	▲ 36.1	▲ 7.7	▲ 9.0	▲ 6.5
H 24.08 (n=145)	2.0 (▲ 11.5)	▲ 17.3	1.4	▲ 6.9	▲ 17.3	▲ 7.6	▲ 9.0	▲ 13.1	
前回調査比	-	-	(▲ 18.0)	(▲ 13.3)	(18.8)	(0.1)	(0.0)	(▲ 6.6)	
先行き見通し	0.0	-	-	▲ 2.7	▲ 10.3	▲ 14.5	▲ 17.3	▲ 0.7	▲ 23.5
今回調査比	(▲ 2.0)	-	-	(▲ 4.1)	(▲ 3.4)	(2.8)	(▲ 9.7)	(8.3)	(▲ 10.4)

【参考】前期比の自社業況D I 値

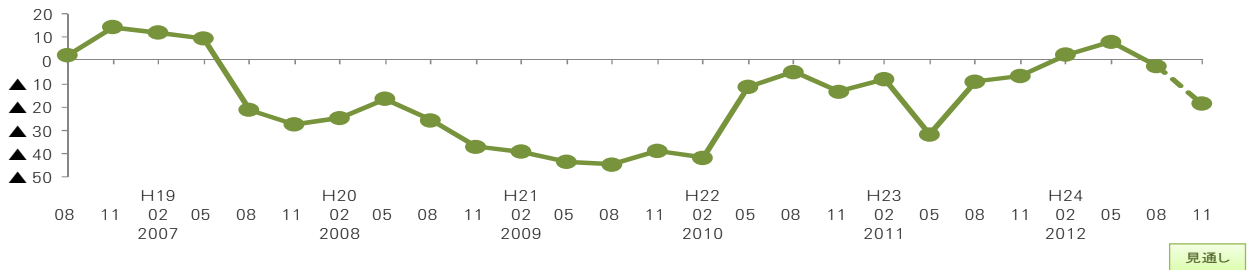
製造業 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前期比)		売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員 人手	資金繰り
	前回調査比							
H 23.08 (n=157)	▲ 7.6	(22.4)	▲ 5.1	▲ 17.2	▲ 42.0	▲ 3.8	▲ 12.1	▲ 21.0
H 23.11 (n=147)	2.0	(9.6)	13.6	▲ 0.7	▲ 37.4	▲ 6.8	▲ 4.0	▲ 17.0
H 24.02 (n=158)	▲ 5.0	(▲ 7.0)	▲ 1.9	▲ 12.0	▲ 24.0	▲ 6.4	▲ 7.6	▲ 13.3
H 24.05 (n=155)	▲ 0.6	(4.4)	1.3	▲ 10.9	▲ 31.0	▲ 12.3	▲ 10.4	▲ 10.4
H 24.08 (n=145)	1.3	(1.9)	5.5	▲ 4.8	▲ 13.8	▲ 10.4	▲ 6.9	▲ 15.2
前回調査比	-	-	(4.2)	(6.1)	(17.2)	(1.9)	(3.5)	(▲ 4.8)

③ 卸・小売業

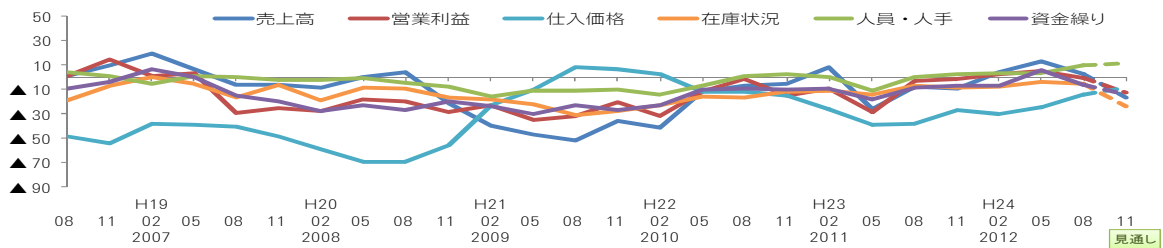
「自社の業況D I 値(前年同期比)」は▲2.5(前回調査比 10.5 ポイント下落)と悪化となった。また「自社の業況D I 値(前期比)」でも、▲5.9(前回調査比 5.9 ポイント下落)と悪化となった。「各種D I 値(前年同期比)」は「仕入価格」、「人員・人手」を除く項目で悪化となった。その中で、「売上高」は 2.5(前回調査比 10.3 ポイント下落)となり、設備機械などは販売増加の動きがある一方、エコカー補助金制度が追い風となっていた自動車関連業界にやや服感が漂っている結果と考えられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況D I 値」が▲18.5(今回調査比 16.0 ポイント下落)となり、「各種D I 値」もほとんどの項目で悪化の見通しとなった。これは現状底堅く推移している個人消費について、回復のペースの鈍化などを懸念している結果と考えられる。

図表 8 卸・小売業「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



図表 9 卸・小売業「各種D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

卸・小売業 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員 人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
H 23.08 (n=119)	▲9.2	(22.7)	▲34.8	▲7.6	▲3.3	▲37.8	▲6.7	0.0	▲8.4
H 23.11 (n=119)	▲6.7	(2.5)	▲14.3	▲9.2	▲1.6	▲26.9	▲8.4	2.5	▲6.7
H 24.02 (n=120)	2.5	(9.2)	▲10.1	4.2	2.5	▲30.0	▲7.5	3.4	▲6.7
H 24.05 (n=125)	8.0	(5.5)	▲13.3	12.8	4.8	▲24.8	▲4.0	3.2	5.6
H 24.08 (n=119)	▲2.5 (▲10.5)	▲12.0	2.5	▲0.8	▲14.3	▲5.1	10.1	▲5.9	
前回調査比	-	-	-	(▲10.3)	(▲5.6)	(10.5)	(▲1.1)	(6.9)	(▲11.5)
先行き見通し	▲18.5	-	-	▲16.8	▲12.6	▲8.4	▲23.6	11.8	▲14.3
今回調査比	(▲16.0)	-	-	(▲19.3)	(▲11.8)	(5.9)	(▲18.5)	(1.7)	(▲8.4)

【参考】前期比の自社業況D I 値

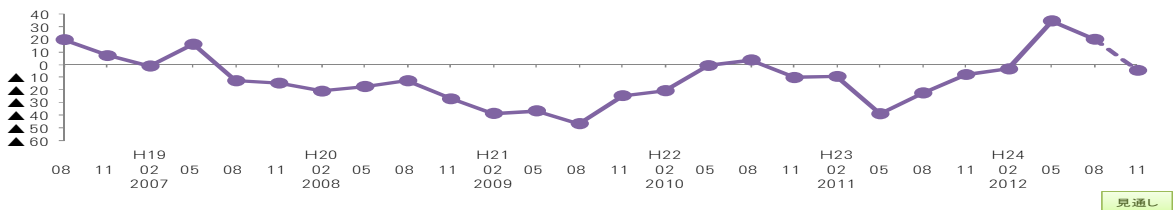
卸・小売業 調査時(サンプル数)	自社業況(前期比)		売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員 人手	資金繰り
	前回調査比							
H 23.08 (n=119)	▲5.9	(30.4)	▲10.1	▲7.5	▲30.3	▲2.5	▲2.5	▲12.6
H 23.11 (n=119)	▲2.5	(3.4)	▲0.8	▲5.9	▲29.5	▲8.4	0.8	▲7.5
H 24.02 (n=120)	▲2.5	(0.0)	0.8	▲0.8	▲25.0	▲3.4	3.3	▲10.8
H 24.05 (n=125)	0.0	(2.5)	5.6	▲2.4	▲18.4	▲3.2	3.2	▲0.8
H 24.08 (n=119)	▲5.9 (▲5.9)		5.6	▲1.7	▲5.0	▲10.9	▲10.1	▲6.7
前回調査比	-	-	(0.0)	(0.7)	(13.4)	(▲7.7)	(▲13.3)	(▲5.9)

④ サービス業

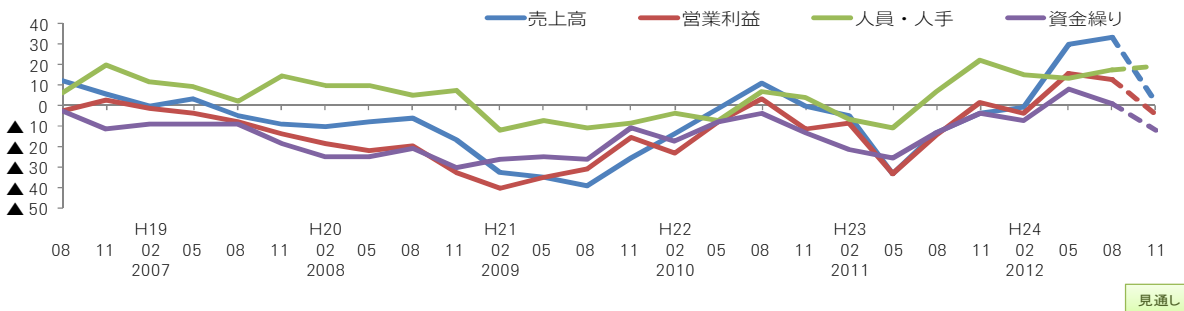
「自社の業況D I 値(前年同期比)」は 20.0(前回調査比 14.5 ポイント下落)と、D I 値はプラスを維持しているも、前回調査と比較して悪化となった。また「自社の業況D I 値(前期比)」でみると、12.7(前回調査比 3.8 ポイント上昇)と回復が見られた。「各種D I 値(前年同期比)」はすべての項目でD I 値がプラスとなった。特に「売上高」が 33.6(前回調査比 3.5 ポイント上昇)と回復し、この要因として飲食業など対個人向けやリサイクル業や運輸業など対事業者向けの業況回復が考えられる。その一方で、震災における風評被害が依然として残る業界もあり、企業によって回復度合いにバラツキがみられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況D I 値」が▲4.6(今回調査比 24.6 ポイント下落)と悪化の見込みとなっている。この要因として運輸業などを中心に燃料価格高騰などを懸念している結果と考えられる。

図表 10 サービス業「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



図表 11 サービス業「各種D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

サービス業 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測					
H 23.08 (n=120)	▲ 22.5	(16.4)	▲ 39.0	▲ 13.3	▲ 14.1	6.7	▲ 13.4
H 23.11 (n=113)	▲ 7.9	(14.6)	▲ 11.6	▲ 3.6	1.7	22.1	▲ 3.5
H 24.02 (n=114)	▲ 3.5	(4.4)	▲ 7.1	▲ 0.9	▲ 3.5	14.9	▲ 7.1
H 24.05 (n=113)	34.5	(38.0)	▲ 7.8	30.1	15.9	13.3	8.0
H 24.08 (n=110)	20.0 (▲ 14.5)		1.8	33.6	12.7	17.3	0.9
前回調査比	-	-	-	(3.5)	(▲ 3.2)	(4.0)	(▲ 7.1)
先行き見通し	▲ 4.6	-	-	1.8	▲ 4.5	19.1	▲ 11.8
今回調査比	(▲ 24.6)	-	-	(▲ 31.8)	(▲ 17.2)	(1.8)	(▲ 12.7)

【参考】前期比の自社業況D I 値

サービス業 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前期比)		売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比					
H 23.08 (n=120)	▲ 13.3	(18.0)	▲ 4.2	▲ 3.4	11.6	▲ 9.2
H 23.11 (n=113)	5.3	(18.6)	15.9	8.0	21.3	▲ 8.0
H 24.02 (n=114)	0.9	(▲ 4.4)	▲ 2.6	▲ 11.4	15.0	▲ 14.0
H 24.05 (n=113)	8.9	(8.0)	16.0	7.0	10.7	1.7
H 24.08 (n=110)	12.7	(3.8)	20.9	15.5	13.7	2.8
前回調査比	-	-	(4.9)	(8.5)	(3.0)	(1.1)

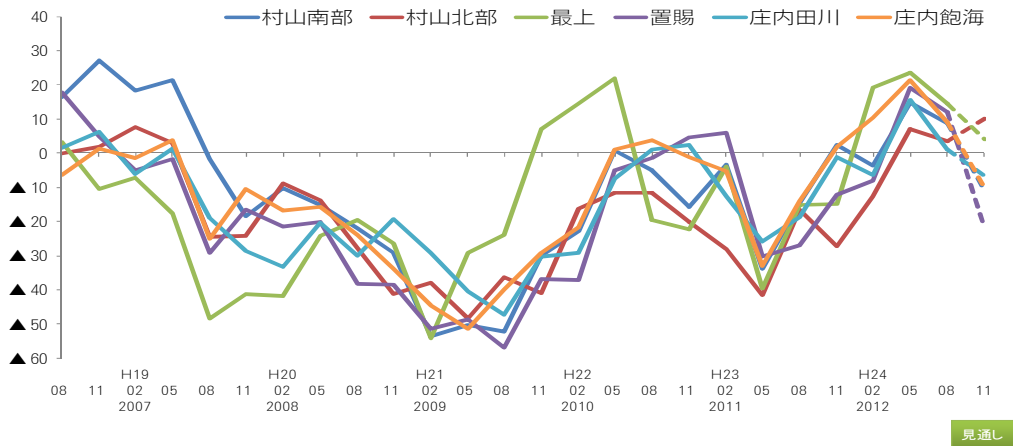
3. 地域別の動向

(1) 地域別の概況

地域別に「自社の業況D I 値(前年同期比)」をみると、村山南部で 8.7(前回調査比 6.0 ポイント下落)、村山北部で 3.4(前回調査比 3.8 ポイント下落)、最上で 14.6(前回調査比 8.9 ポイント下落)、置賜で 11.9(前回調査比 7.2 ポイント下落)、庄内田川で 1.1(前回調査比 14.5 ポイント下落)、庄内飽海で 9.1(前回調査比 10.9 ポイント下落)となり、全地域ともD I 値はプラスを維持しているも、前回調査と比較して悪化となった。また、「自社の業況D I 値(前期比)」でみると、置賜で▲5.1(前回調査比 22.8 ポイント下落)と悪化幅が大きい。

業況の先行き見通しをみると、「自社の業況D I 値」は▲7.3(今回調査比 15.0 ポイント下落)と悪化の見通し。地域別でも村山北部を除く地域で悪化の見込みとなっている。

図表 12 地域別「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

地域別 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)						
	全地域	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
H 23.08 (n=500)	▲ 17.2	▲ 14.6	▲ 16.4	▲ 15.2	▲ 26.9	▲ 18.7	▲ 14.1
H 23.11 (n=497)	▲ 5.8	2.3	▲ 27.2	▲ 14.8	▲ 12.2	▲ 1.1	2.0
H 24.02 (n=505)	▲ 1.2	▲ 3.7	▲ 12.6	19.2	▲ 7.9	▲ 6.3	10.5
H 24.05 (n=505)	16.6	14.7	7.2	23.5	19.1	15.6	21.4
H 24.08 (n=482)	7.7	8.7	3.4	14.6	11.9	1.1	9.1
前回調査比	(▲ 8.9)	(▲ 6.0)	(▲ 3.8)	(▲ 8.9)	(▲ 7.2)	(▲ 14.5)	(▲ 12.3)
先行き見通し	▲ 7.3	▲ 11.1	10.0	4.2	▲ 22.0	▲ 6.7	▲ 10.1
今回調査比	(▲ 15.0)	(▲ 19.8)	(6.6)	(▲ 10.4)	(▲ 33.9)	(▲ 7.8)	(▲ 19.2)

【参考】前期比の自社業況D I 値

地域別 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前期比)						
	全地域	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
H 23.08 (n=500)	▲ 10.8	▲ 3.8	▲ 22.4	▲ 2.2	▲ 20.9	▲ 14.3	▲ 6.0
H 23.11 (n=497)	3.4	11.6	▲ 19.7	9.3	▲ 10.5	11.0	6.0
H 24.02 (n=505)	▲ 2.2	3.8	▲ 14.1	4.3	▲ 4.8	▲ 4.2	▲ 1.0
H 24.05 (n=505)	2.4	▲ 3.1	4.4	3.9	17.7	▲ 5.6	4.1
H 24.08 (n=482)	3.1	2.4	1.6	0.0	▲ 5.1	8.9	6.1
前回調査比	(0.7)	(5.5)	(▲ 2.8)	(▲ 3.9)	(▲ 22.8)	(14.5)	(2.0)

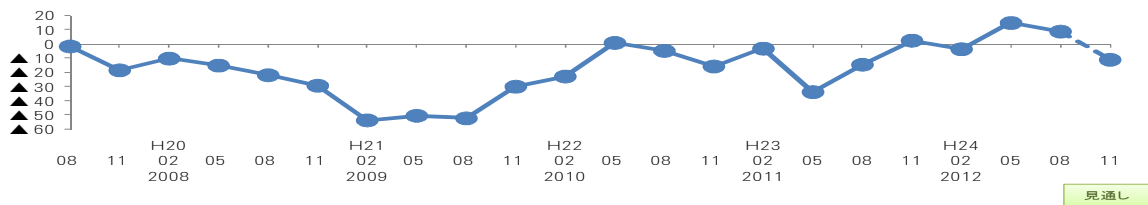
(2) 地域別DI値の動向

① 村山南部

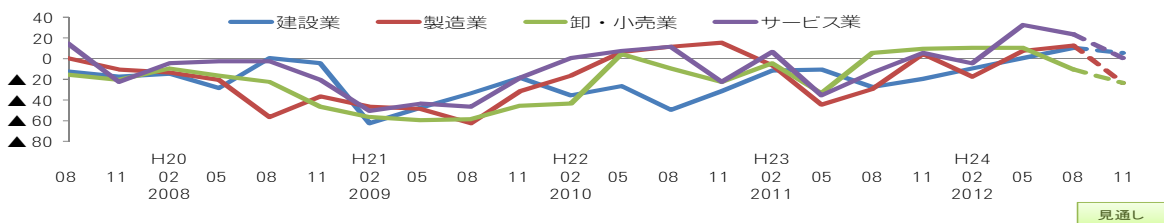
「自社の業況DI値(前年同期比)」は8.7(前回調査比6.0ポイント下落)とDI値はプラスを維持しているも、前回調査と比較して悪化となった。また「自社の業況DI値(前期比)」でみると、2.4(前回調査比5.5ポイント上昇)と回復した。業種別にみると、卸・小売業の「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲10.5(前回調査比20.5ポイント下落)、「自社の業況DI値(前期比)」が▲13.2(前回調査比18.2ポイント下落)となり、エコカー補助金制度が追い風となっていた自動車関連業界にやや一服感が漂っていることが主要因と考えられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が▲11.1(今回調査比19.8ポイント下落)と悪化する見込みとなり、特に製造業やサービス業の悪化幅が大きい結果となっている。

図表 13 村山南部「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表 14 村山南部「業種別・自社業況DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

村山南部 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			業種別/自社業況 (前年同期比)			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.08 (n=130)	▲ 14.6	(19.2)	▲ 36.1	▲ 27.8	▲ 30.3	5.4	▲ 14.3
H 23.11 (n=129)	2.3	(16.9)	▲ 3.1	▲ 20.0	3.7	9.1	5.3
H 24.02 (n=134)	▲ 3.7	(▲ 6.0)	▲ 10.9	▲ 10.0	▲ 17.9	9.7	▲ 4.5
H 24.05 (n=129)	14.7	(18.4)	▲ 14.9	0.0	7.1	10.0	32.5
H 24.08 (n=126)	8.7	(▲ 6.0)	▲ 5.4	10.5	12.0	▲ 10.5	22.8
前回調査比	-	-	-	(10.5)	(4.9)	(▲ 20.5)	(▲ 9.7)
先行き見通し	▲ 11.1	-	-	5.3	▲ 24.0	▲ 23.7	0.0
今回調査比	(▲ 19.8)	-	-	(▲ 5.2)	(▲ 36.0)	(▲ 13.2)	(▲ 22.8)

【参考】前期比の自社業況DI値

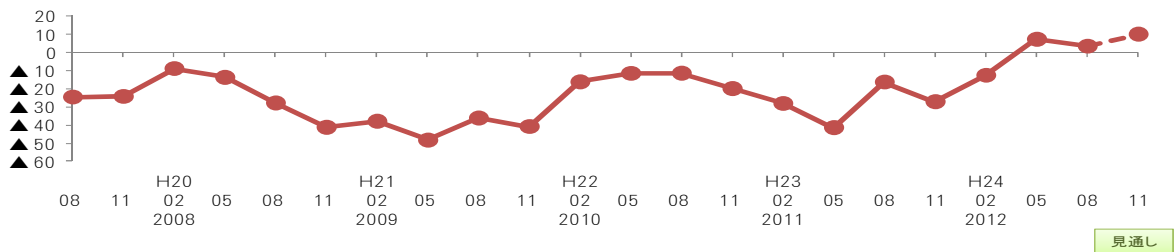
村山南部 調査時 (サンプル)	自社業況 (前期比)		業種別/自社業況 (前期比)			
	全業種	前回調査比	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.08 (n=130)	▲ 3.8	(31.6)	▲ 22.2	3.1	5.4	▲ 9.5
H 23.11 (n=129)	11.6	(15.4)	10.0	11.1	6.8	18.4
H 24.02 (n=134)	3.8	(▲ 7.8)	▲ 10.0	0.0	2.4	13.4
H 24.05 (n=129)	▲ 3.1	(▲ 6.9)	▲ 14.3	0.0	5.0	▲ 7.5
H 24.08 (n=126)	2.4	(5.5)	15.7	4.0	▲ 13.2	9.1
前回調査比	-	-	(30.0)	(4.0)	(▲ 18.2)	(16.6)

② 村山北部

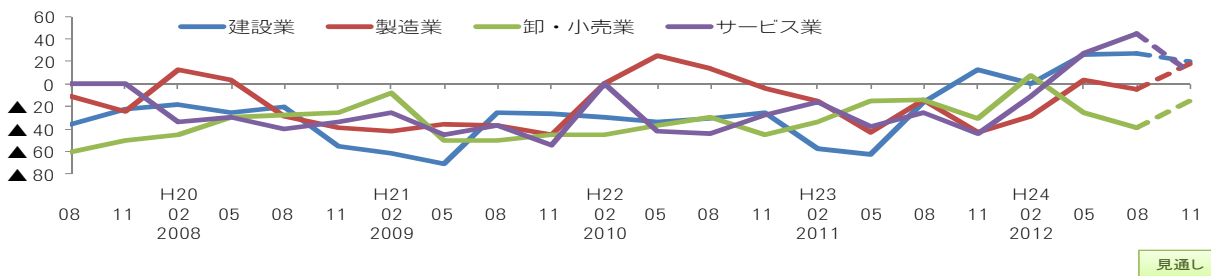
「自社の業況D I 値(前年同期比)」は3.4(前回調査比3.8ポイント下落)とD I 値はプラスを維持しているも、前回調査と比較して悪化となった。また「自社の業況D I 値(前期比)」でも、1.6(前回調査比2.8ポイント下落)となった。業種別に「自社の業況D I 値(前年同期比)」をみると、サービス業が44.5(前回調査比17.2ポイント上昇)と回復し、要因として飲食業、宿泊業、自動車修理関連業界の業況回復などが考えられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況D I 値」が10.0(今回調査比6.6ポイント上昇)と更に回復する見通し。業種別では製造業が17.4(今回調査比21.7ポイント上昇)とD I 値がプラスに転じ回復する見通し。

図表 15 村山北部「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



図表 16 村山北部「業種別・自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

村山北部 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)			業種別/自社業況(前年同期比)			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.08 (n=067)	▲16.4	(25.1)	▲41.5	▲16.6	▲13.8	▲14.3	▲25.0
H 23.11 (n=066)	▲27.2	(▲10.8)	▲31.3	12.5	▲42.8	▲30.8	▲44.4
H 24.02 (n=071)	▲12.6	(14.6)	▲19.7	0.0	▲29.0	7.7	▲11.1
H 24.05 (n=69)	7.2	(19.8)	▲21.1	26.6	3.2	▲25.0	27.3
H 24.08 (n=60)	3.4	(▲3.8)	7.2	26.7	▲4.3	▲38.5	44.5
前回調査比	-	-	-	(0.1)	(▲7.5)	(▲13.5)	(17.2)
先行き見通し	10.0	-	-	20.0	17.4	▲15.4	11.1
今回調査比	(6.6)	-	-	(▲6.7)	(21.7)	(23.1)	(▲33.4)

【参考】前期比の自社業況D I 値

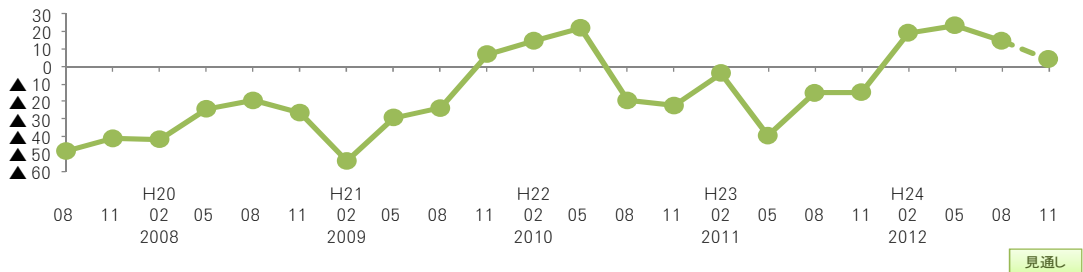
村山北部 調査時(サンプル)	自社業況(前期比)		業種別/自社業況(前期比)			
	全業種	前回調査比	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.08 (n=067)	▲22.4	(25.3)	▲25.0	▲27.6	▲7.2	▲25.0
H 23.11 (n=066)	▲19.7	(2.7)	0.0	▲21.4	▲15.4	▲55.6
H 24.02 (n=071)	▲14.1	(5.6)	▲5.6	▲22.6	0.0	▲22.2
H 24.05 (n=69)	4.4	(18.5)	40.0	▲9.7	▲33.4	36.4
H 24.08 (n=60)	1.6	(▲2.8)	6.7	▲4.4	▲30.8	55.6
前回調査比	-	-	(▲33.3)	(5.3)	(2.6)	(19.2)

③ 最上

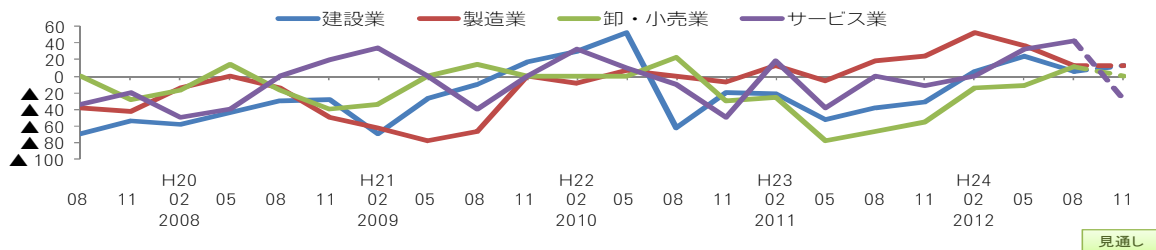
「自社の業況D I 値(前年同期比)」は 14.6(前回調査比 8.9 ポイント下落)とD I 値はプラスを維持しているも、前回調査と比較して悪化となった。また「自社の業況D I 値(前期比)」でも、0.0(前回調査比 3.9 ポイント下落)と僅かながら悪化となった。業種別に「自社の業況D I 値(前年同期比)」でみると、サービス業が 42.9(前回調査比 9.6 ポイント上昇)と回復し、「自社の業況D I 値(前期比)」でも、42.9(前回調査比 20.7 ポイント上昇)と回復度合いが高く、観光業、リサイクル関連業などが好調を維持している結果と考えられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況D I 値」が 4.2(今回調査比 10.4 ポイント下落)と悪化する見込みとなっている。特に現状好調を維持しているサービス業の悪化見込み度合いが高く、その反動減を懸念している結果と考えられる。

図表 17 最上「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



図表 18 最上「業種別・自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

最上 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)			業種別/自社業況(前年同期比)			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.08 (n=046)	▲ 15.2	(24.4)	▲ 22.6	▲ 37.5	18.8	▲ 66.7	0.0
H 23.11 (n=054)	▲ 14.8	(0.4)	▲ 10.9	▲ 31.6	23.6	▲ 55.6	▲ 11.1
H 24.02 (n=047)	19.2	(34.0)	1.9	5.6	52.9	▲ 14.3	0.0
H 24.05 (n=51)	23.5	(4.3)	▲ 23.4	23.5	37.5	▲ 11.1	33.3
H 24.08 (n=48)	14.6	(▲ 8.9)	0.0	6.2	12.5	11.1	42.9
前回調査比	-	-	-	(▲ 17.3)	(▲ 25.0)	(22.2)	(9.6)
先行き見通し	4.2	-	-	12.5	12.5	0.0	▲ 28.6
今回調査比	(▲ 10.4)	-	-	(6.3)	(0.0)	(▲ 11.1)	(▲ 71.5)

【参考】前期比の自社業況D I 値

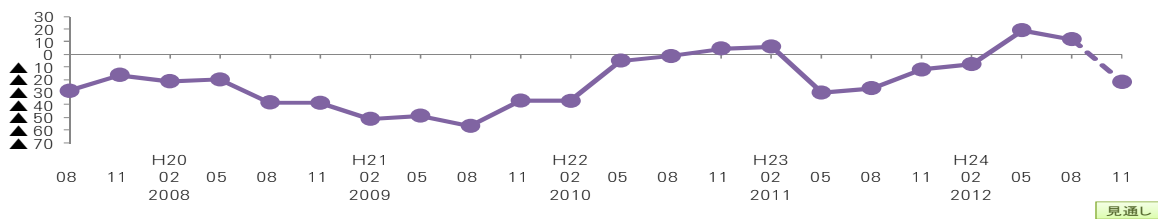
最上 調査時(サンプル)	自社業況(前期比)		業種別/自社業況(前期比)			
	全業種	前回調査比	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.08 (n=046)	▲ 2.2	(29.9)	▲ 37.5	18.7	0.0	25.0
H 23.11 (n=054)	9.3	(11.5)	0.0	35.3	▲ 22.2	11.1
H 24.02 (n=047)	4.3	(▲ 5.0)	5.6	23.5	▲ 14.3	▲ 40.0
H 24.05 (n=51)	3.9	(▲ 0.4)	11.8	6.2	▲ 33.3	22.2
H 24.08 (n=48)	0.0	(▲ 3.9)	▲ 12.5	▲ 6.2	0.0	42.9
前回調査比	-	-	(▲ 24.3)	(▲ 12.4)	(33.3)	(20.7)

④ 置 賜

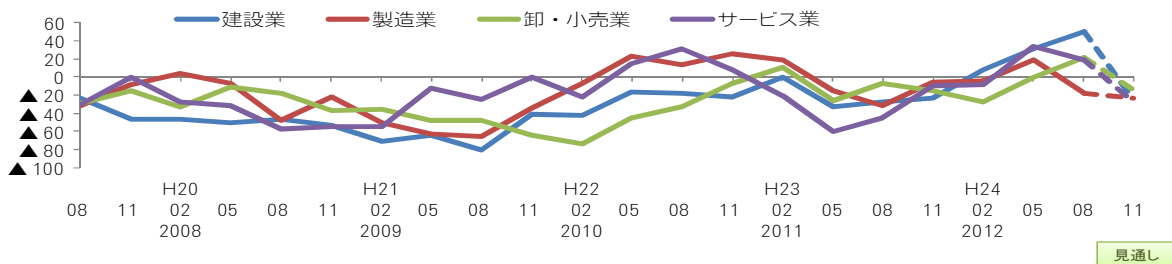
「自社の業況D I 値(前年同期比)」は 11.9(前回調査比 7.2 ポイント下落)とD I 値はプラスを維持しているも、前回調査と比較して悪化となった。また「自社の業況D I 値(前期比)」でも、▲5.1(前回調査比 22.8 ポイント下落)と大幅に悪化した。業種別に「自社の業況D I 値(前年同期比)」と「自社の業況D I 値(前期比)」でみると、製造業がD I 値マイナスとなり悪化している。これは、依然として続いている円高やデジタル家電の需要減少、また原材料等の高騰などが要因として考えられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況D I 値」が▲22.0(今回調査比 33.9 ポイント下落)と悪化する見込み。業種別でも、すべての業種で悪化の見込みとなっている。

図表 19 置賜「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



図表 20 置賜「業種別・自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

置 賜 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			業種別/自社業況 (前年同期比)			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.08 (n=067)	▲ 26.9	(3.5)	▲ 43.0	▲ 26.7	▲ 32.0	▲ 6.3	▲ 45.4
H 23.11 (n=057)	▲ 12.2	(14.7)	▲ 17.9	▲ 23.1	▲ 5.0	▲ 15.4	▲ 9.1
H 24.02 (n=063)	▲ 7.9	(4.3)	▲ 21.0	8.3	▲ 4.2	▲ 26.7	▲ 8.4
H 24.05 (n=68)	19.1	(27.0)	▲ 19.0	30.8	19.2	0.0	33.3
H 24.08 (n=59)	11.9	(▲ 7.2)	▲ 22.1	50.0	▲ 18.2	21.4	18.2
前回調査比	-	-	-	(19.2)	(▲ 37.4)	(21.4)	(▲ 15.1)
先行き見通し	▲ 22.0	-	-	▲ 25.0	▲ 22.8	▲ 14.3	▲ 27.3
今回調査比	(▲ 33.9)	-	-	(▲ 75.0)	(▲ 4.6)	(▲ 35.7)	(▲ 45.5)

【参考】前期比の自社業況D I 値

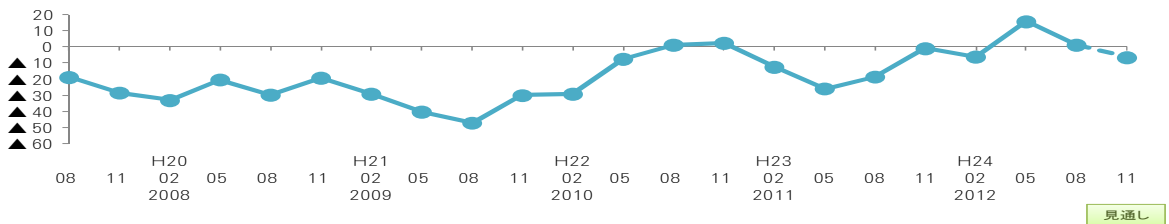
置 賜 調査時 (サンプル)	自社業況 (前期比)		業種別/自社業況 (前期比)			
	全業種	前回調査比	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.08 (n=067)	▲ 20.9	(13.3)	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 12.5	▲ 36.4
H 23.11 (n=057)	▲ 10.5	(10.4)	▲ 15.4	5.0	▲ 15.4	▲ 27.2
H 24.02 (n=063)	▲ 4.8	(5.7)	8.3	▲ 4.2	▲ 20.0	0.0
H 24.05 (n=68)	17.7	(22.5)	15.4	15.4	11.8	33.3
H 24.08 (n=59)	▲ 5.1	(▲ 22.8)	25.0	▲ 27.3	7.1	▲ 9.1
前回調査比	-	-	(9.6)	(▲ 42.7)	(▲ 4.7)	(▲ 42.4)

⑤ 庄内田川

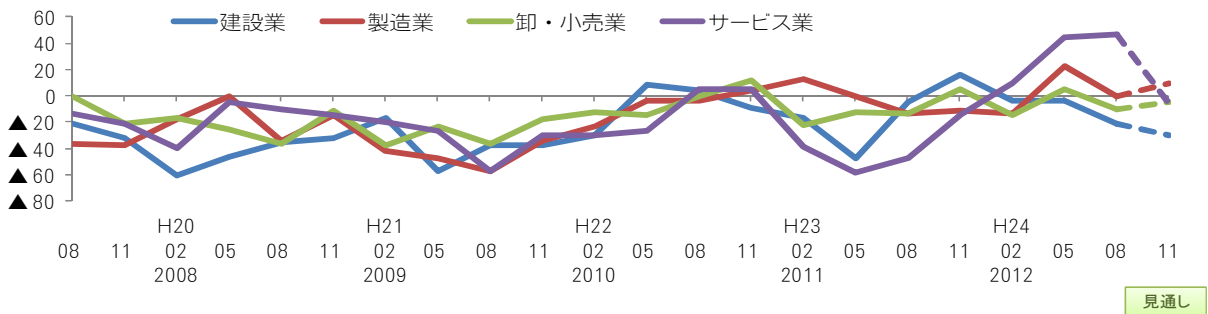
「自社の業況D I 値(前年同期比)」は 1.1(前回調査比 14.5 ポイン下落)と悪化した一方で、「自社の業況D I 値(前期比)」でみると、8.9(前回調査比 14.5 ポイント上昇)と回復した。業種別に「自社の業況D I 値(前年同期比)」でみると、サービス業を除く業種で悪化となった。これは企業によってバラツキはあるものの、大型公共工事終了後の反動減、長引く円高、個人消費の回復度合いの鈍化などが反映されている結果と考えられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況D I 値」が▲6.7(今回調査比 7.8 ポイント下落)と悪化の見込みとなっている。業種別にみると、サービス業の悪化度合いが高い。

図表 21 庄内田川「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



図表 22 庄内田川「業種別・自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

庄内田川 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			業種別/自社業況 (前年同期比)			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.08 (n=091)	▲18.7	(7.3)	▲14.7	▲4.8	▲13.8	▲13.6	▲47.4
H 23.11 (n=091)	▲1.1	(17.6)	▲19.8	16.0	▲11.1	5.2	▲15.0
H 24.02 (n=095)	▲6.3	(▲5.2)	▲7.7	▲4.1	▲13.3	▲15.0	9.5
H 24.05 (n=90)	15.6	(21.9)	▲15.8	▲4.3	22.2	4.6	44.5
H 24.08 (n=90)	1.1	(▲14.5)	▲14.5	▲21.7	0.0	▲10.5	47.0
前回調査比	-	-	-	(▲17.4)	(▲22.2)	(▲15.1)	(2.5)
先行き見通し	▲6.7	-	-	▲30.4	9.7	▲5.3	▲5.9
今回調査比	(▲7.8)	-	-	(▲8.7)	(9.7)	(5.2)	(▲52.9)

【参考】前期比の自社業況D I 値

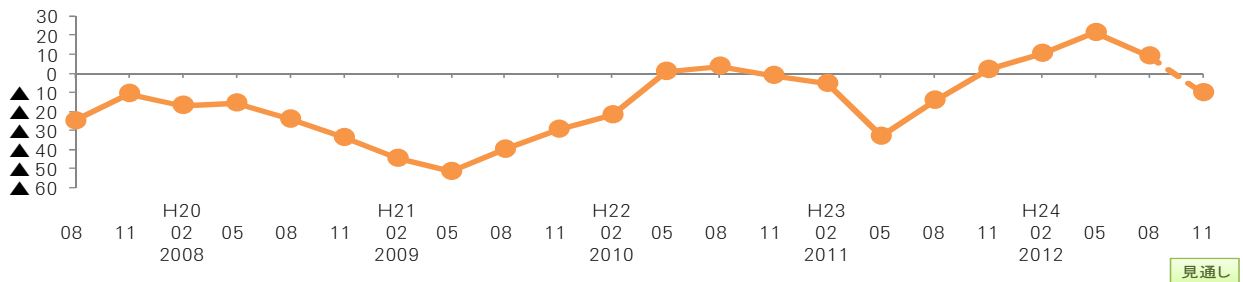
庄内田川 調査時 (サンプル)	自社業況 (前期比)		業種別/自社業況 (前期比)			
	全業種	前回調査比	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.08 (n=091)	▲14.3	(12.8)	▲23.8	▲6.9	▲9.1	▲21.0
H 23.11 (n=091)	11.0	(25.3)	24.0	▲3.7	5.3	20.0
H 24.02 (n=095)	▲4.2	(▲15.2)	0.0	▲3.3	▲20.0	4.7
H 24.05 (n=90)	▲5.6	(▲1.4)	▲13.1	3.7	▲13.6	0.0
H 24.08 (n=90)	8.9	(14.5)	▲13.1	19.4	▲10.5	41.2
前回調査比	-	-	(0.0)	(15.7)	(3.1)	(41.2)

⑥ 庄内飽海

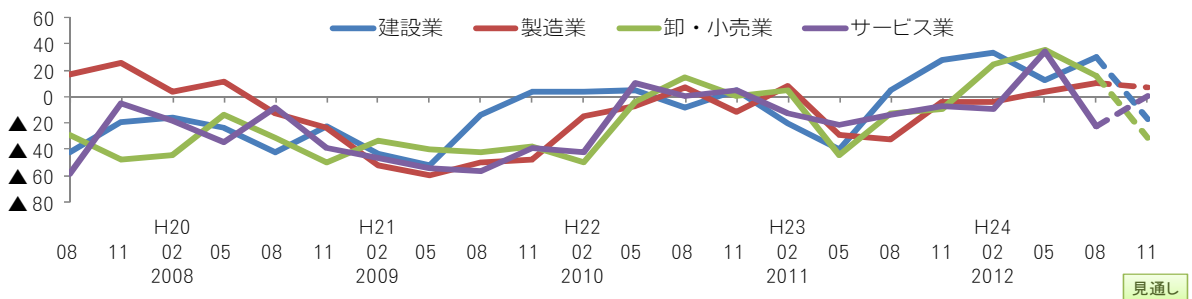
「自社の業況D I 値(前年同期比)」は 9.1(前回調査比 12.3 ポイント下落)とD I 値はプラスを維持しているも、前回調査と比較して悪化となった。また「自社の業況D I 値(前期比)」で見ると、6.1(前回調査比 2.0 ポイント上昇)と回復した。業種別に「自社の業況D I 値(前年同期比)」をみると、建設業が 30.5(前回調査比 17.5 ポイント上昇)と回復した一方で、サービス業が▲22.8(前回調査比 57.6 ポイント下落)と悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況D I 値」が▲10.1(今回調査比 19.2 ポイント下落)と悪化の見込みとなっている。業種別で見ると、サービス業を除く業種で悪化の見通しとなっている。

図表 23 庄内飽海「自社の業況D I 値(前年同期比)」の推移



図表 24 庄内飽海「業種別・自社の業況D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

庄内飽海 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			業種別/自社業況 (前年同期比)			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.08 (n=099)	▲ 14.1	(18.9)	▲ 36.7	4.6	▲ 32.0	▲ 12.5	▲ 14.3
H 23.11 (n=100)	2.0	(16.1)	▲ 16.1	28.0	▲ 3.6	▲ 9.5	▲ 7.7
H 24.02 (n=095)	10.5	(8.5)	▲ 20.0	33.3	▲ 3.6	25.0	▲ 9.1
H 24.05 (n=98)	21.4	(10.9)	▲ 23.2	13.0	3.7	36.0	34.8
H 24.08 (n=99)	9.1	(▲ 12.3)	▲ 11.2	30.5	10.7	15.4	▲ 22.8
前回調査比	-	-	-	(17.5)	(7.0)	(▲ 20.6)	(▲ 57.6)
先行き見通し	▲ 10.1	-	-	▲ 17.4	7.1	▲ 30.8	0.0
今回調査比	(▲ 19.2)	-	-	(▲ 47.9)	(▲ 3.6)	(▲ 46.2)	(22.8)

【参考】前期比の自社業況D I 値

庄内飽海 調査時 (サンプル)	自社業況 (前期比)		業種別/自社業況 (前期比)			
	全業種	前回調査比	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.08 (n=099)	▲ 6.0	(19.5)	9.1	▲ 4.0	▲ 16.7	▲ 10.7
H 23.11 (n=100)	6.0	(12.0)	20.0	0.0	▲ 4.8	7.7
H 24.02 (n=095)	▲ 1.0	(▲ 7.0)	0.0	▲ 10.7	16.7	▲ 9.1
H 24.05 (n=98)	4.1	(5.1)	▲ 4.3	▲ 14.8	24.0	13.0
H 24.08 (n=99)	6.1	(2.0)	17.4	10.7	11.6	▲ 18.2
前回調査比	-	-	(21.7)	(25.5)	(▲ 12.4)	(▲ 31.2)

II. 景気の天気予報図

【天気図の凡例】

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
$D \geq 30$	$30 > D \geq 10$	$10 > D \geq \Delta 10$	$\Delta 10 > D \geq \Delta 30$	$\Delta 30 > D$

山形県

今期の業況 →

来期の見通し

庄内飽海

今期の業況 →

来期の見通し

最上

今期の業況 →

来期の見通し

庄内田川

今期の業況 →

来期の見通し

村山北部

今期の業況 →

来期の見通し

置賜

今期の業況 →

来期の見通し

村山南部

今期の業況 →

来期の見通し

今期の概況

来期の見通し

	山形県	村山 置賜	村山 北部	最上	置賜	庄内 田川	庄内 飽海
全業種							
繊維業							
鉄鋼業							
卸・小売業							
リ・ビル業							



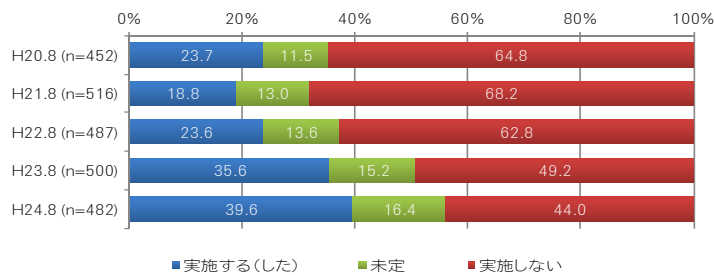
	山形県	村山 置賜	村山 北部	最上	置賜	庄内 田川	庄内 飽海
全業種							
繊維業							
鉄鋼業							
卸・小売業							
リ・ビル業							

III. 特別調査

1. 設備投資動向

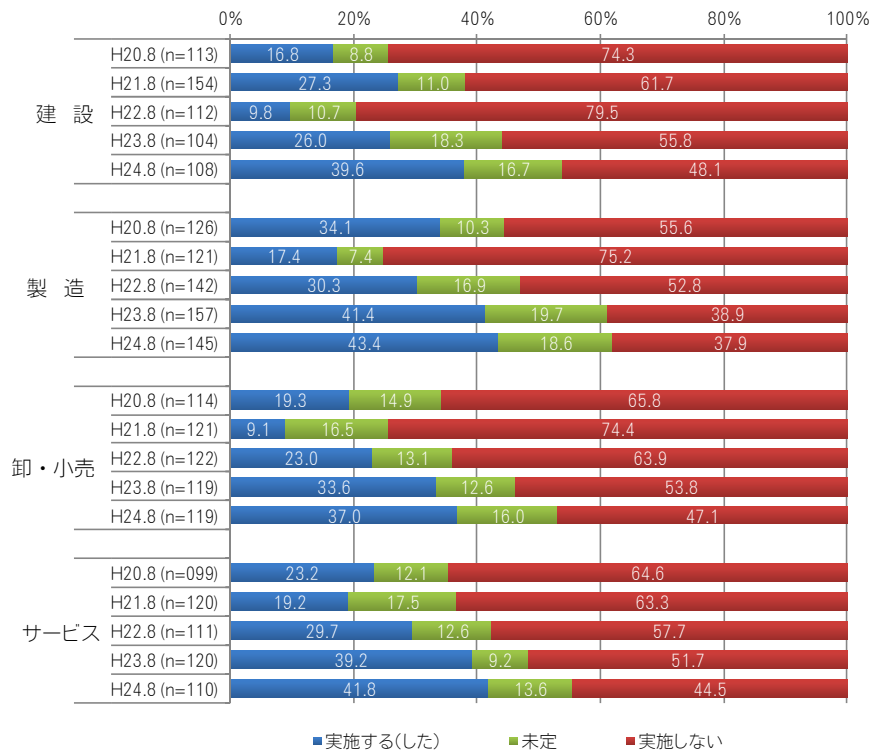
24年度中に設備投資を「実施した」、または「実施する」と回答した企業の割合は39.6%であり、昨年度調査より4.0ポイント増加した。要因としてリーマンショック以降先延ばしにされていた設備投資が徐々に増加していることや、震災復興関連の仕事に対応する為の設備投資が増加していることなどが考えられる。

図表 25 「設備投資動向」の推移



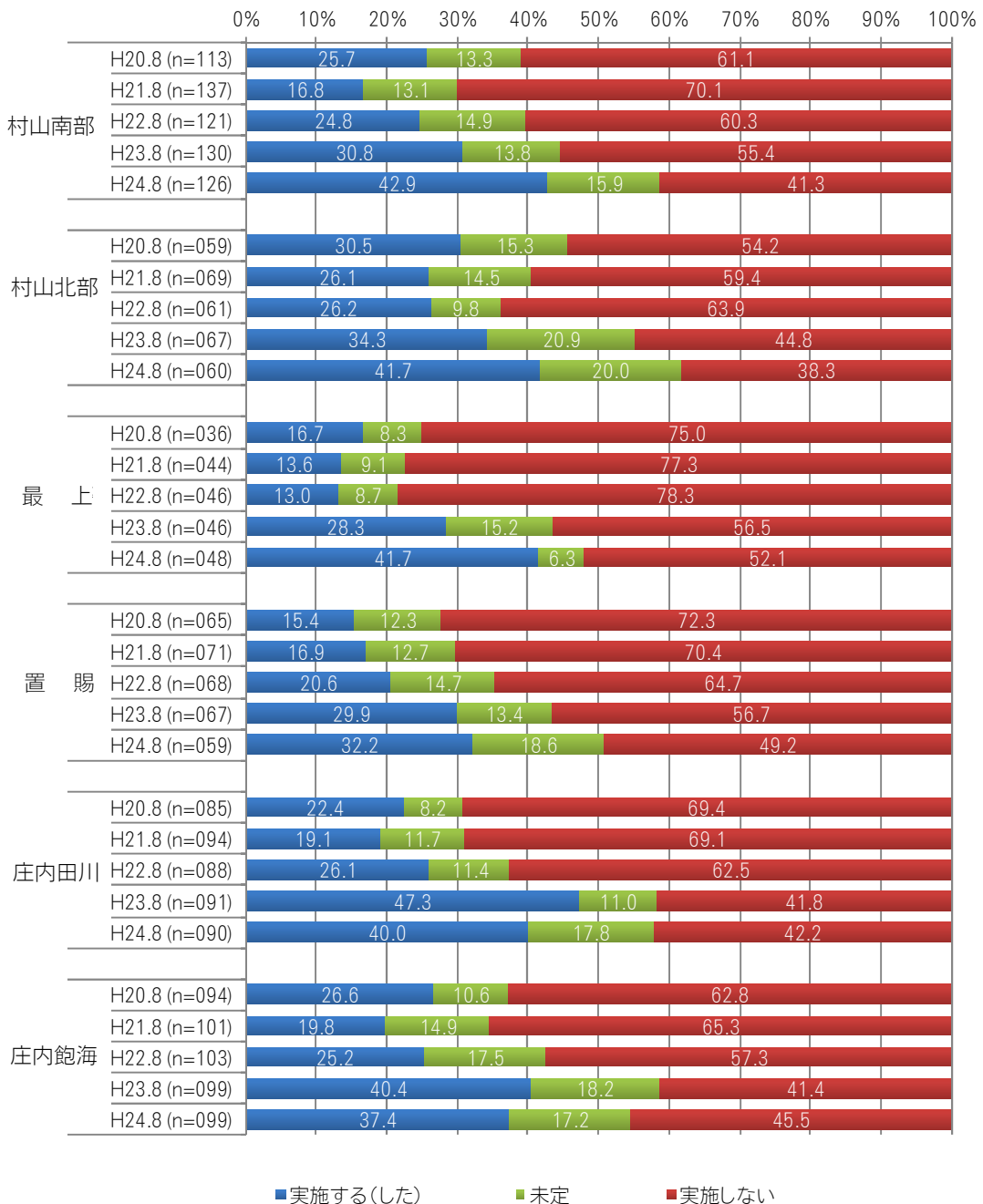
業種別にみると建設業が 39.6% (13.6 ポイント増加)、製造業が 43.4% (2.0 ポイント増加)、卸・小売業が 37.0% (3.4 ポイント増加)、サービス業が 41.8% (2.6 ポイント増加)と全業種にわたって増加している。特に建設業の増加度合いが高く、震災復興関連の仕事に対応する為の設備投資が増加していることなどが考えられる。

図表 26 業種別「設備投資動向」の推移



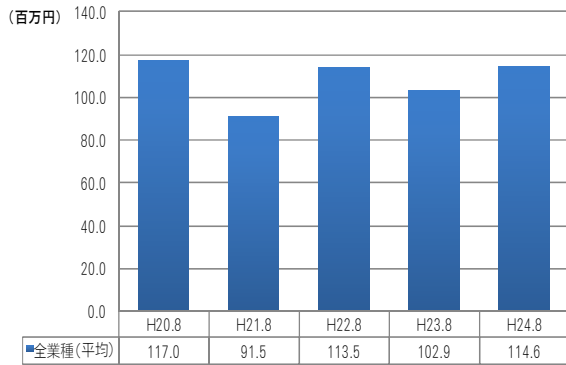
地域別にみると村山南部は42.9%(12.1ポイント増加)、村山北部は41.7%(7.4ポイント増加)、最上は41.7%(13.4ポイント増加)、置賜は32.2%(2.3ポイント増加)、庄内田川は40.0%(7.3ポイント下落)、庄内飽海は37.4%(3.0ポイント下落)と主に県内内陸地域は増加し、沿岸地域は下落している。これは震災復興関連の仕事に対応する為の設備投資が増加していることなどが考えられ、仙台をはじめとする被災地との経済関係の深浅によるものと思われる。

図表 27 地域別「設備投資動向」の推移



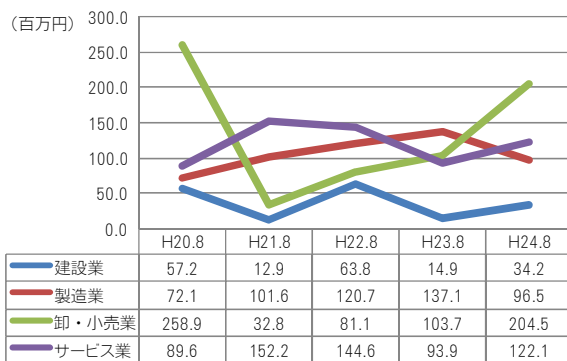
2. 設備投資金額

図表 28 全業種「設備投資金額と実施割合」の推移



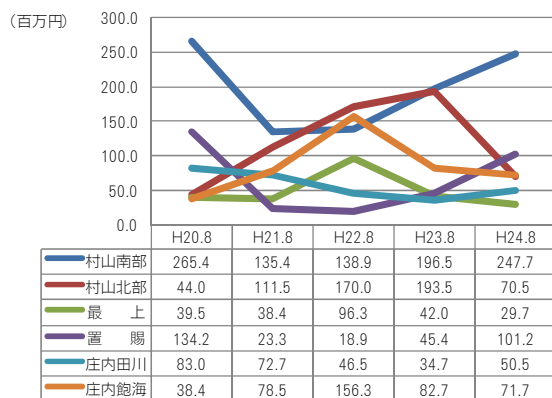
設備投資を「実施した」、または「実施する」と回答した企業に投資額を尋ねたところ、1社あたり平均投資(予定)額は1億1,460万円で、昨年度の調査よりも1,170万円増加した。

図表 29 業種別「設備投資金額」の推移



業種別にみると、建設業が3,420万円(1,930万円増加)、製造業が9,650万円(4,060万円減少)、卸・小売業が2億450万円(1億80万円増加)、サービス業が1億2,210万円(2,820万円増加)となり、製造業以外の業種で増加した。

図表 30 地域別「設備投資金額」の推移

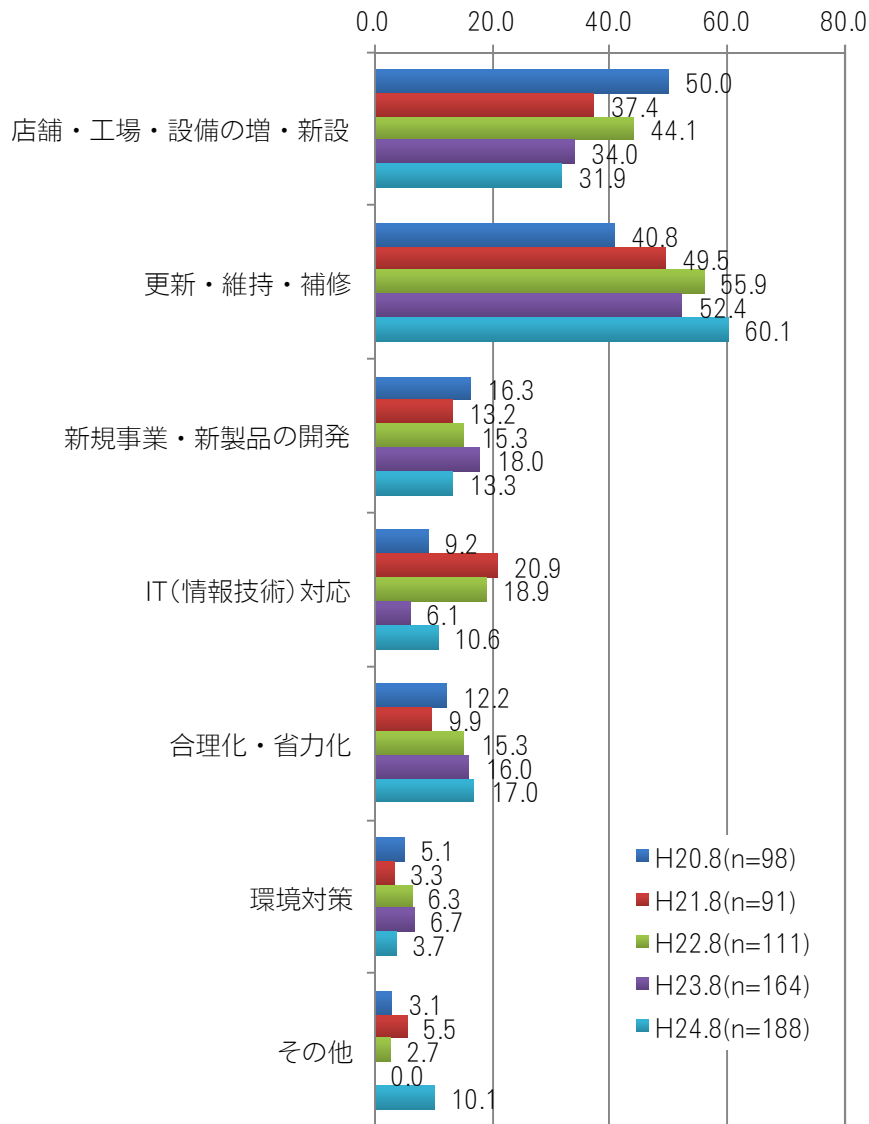


地域別にみると、村山南部が2億4,770万円(5,120万円増加)、村山北部が7,050万円(1億2,300万円減少)、最上が2,970万円(1,230万円減少)、置賜が1億120万円(5,580万円増加)、庄内田川が5,050万円(1,580万円増加)、庄内飽海が7,170万円(1,100万円減少)となり、村山南部、置賜、庄内田川地域が増加となった。

3. 設備投資目的

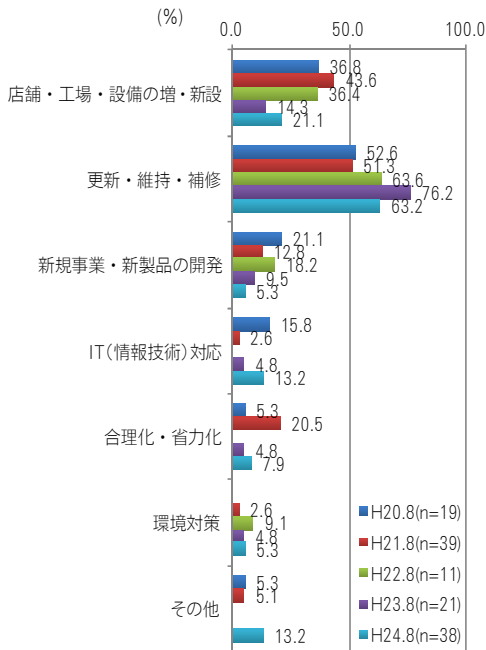
設備投資の主な目的について尋ねたところ(複数回答)、「更新・維持・補修」と回答した企業が最も多く60.1%であった。次いで「店舗・工場・設備などの増・新設」(31.9%)、「合理化・省力化」(17.0%)の順となっている。特に「合理化・省力化」は3期連続で増加しており、各企業が節電等における省エネ対策を継続していることが考えられる。

図表 31 「設備投資の目的」の推移(複数回答 %)

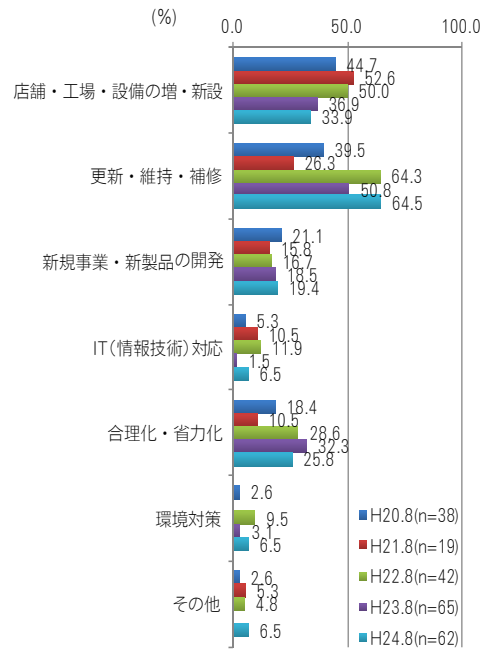


業種別に投資目的の推移をみると、すべての業種で「維持・更新・補修」における設備投資割合が高いことが分かる。また卸・小売業で「店舗・工場・設備の増・新設」の割合が48.8%と他業種と比較して高い割合となっている。これはリーマンショック以降先延ばしにされていた店舗等への設備投資が徐々に増加していることなどが考えられる。「合理化・省力化」については製造業が25.8%と各業種の中で一番高くなっている。

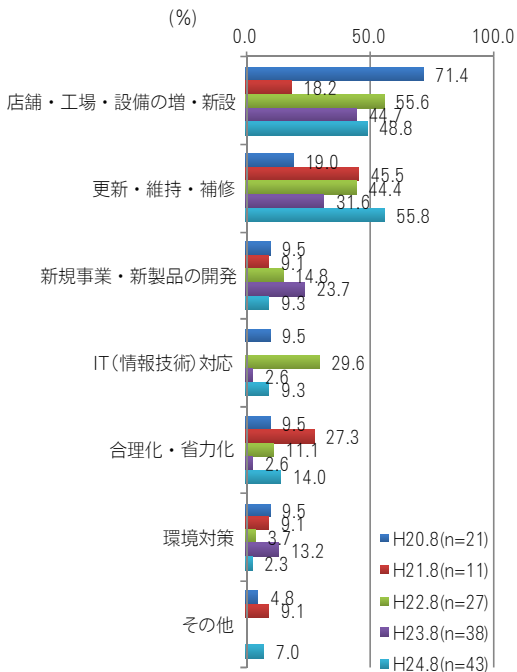
図表 32 建設業「設備投資の目的」の推移(複数回答)



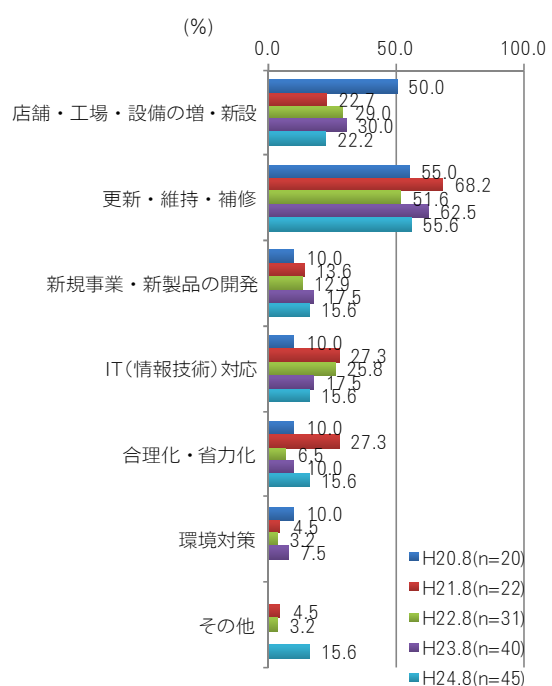
図表 33 製造業「設備投資の目的」の推移(複数回答)



図表 34 卸・小売業「設備投資の目的」の推移(複数回答)

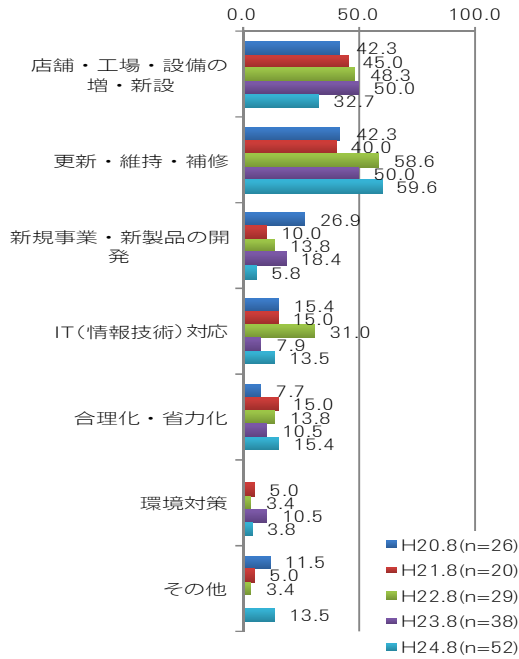


図表 35 サービス業「設備投資の目的」の推移(複数回答)

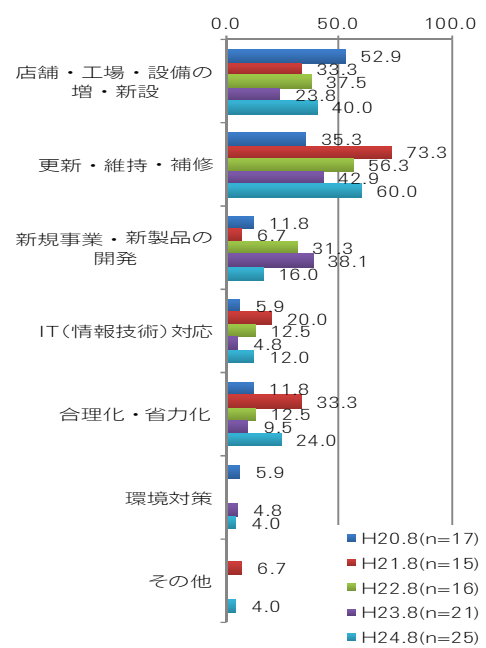


地域別にみても、すべての地域で「維持・更新・補修」における設備投資割合が高いことが分かる。また、村山北部と庄内田川の地域で「店舗・工場・設備の増・新設」の割合が40%を超え、他地域と比較して高くなっている。「合理化・省力化」については置賜地域が26.3%と各地域の中で一番高くなっている。

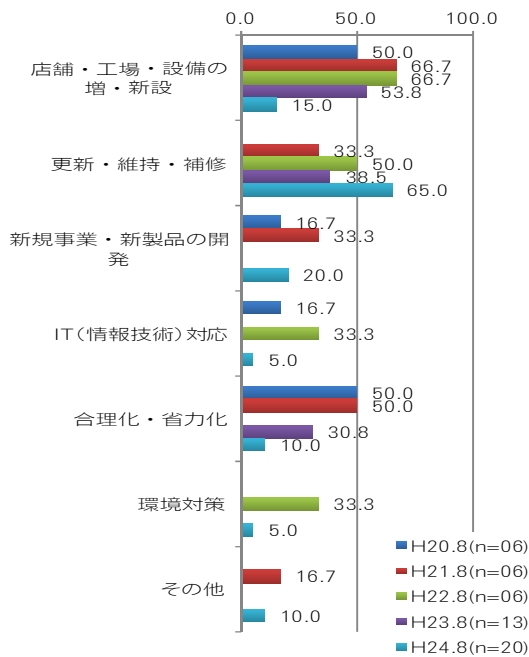
図表 36 村山南部「設備投資の目的」の推移(複数回答%)



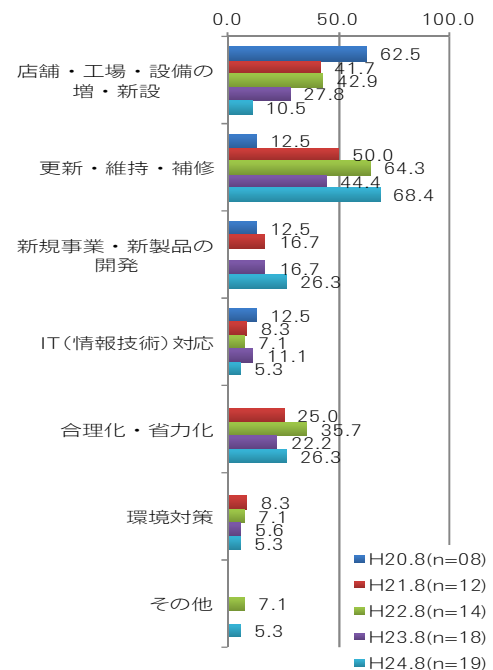
図表 37 村山北部「設備投資の目的」の推移(複数回答%)



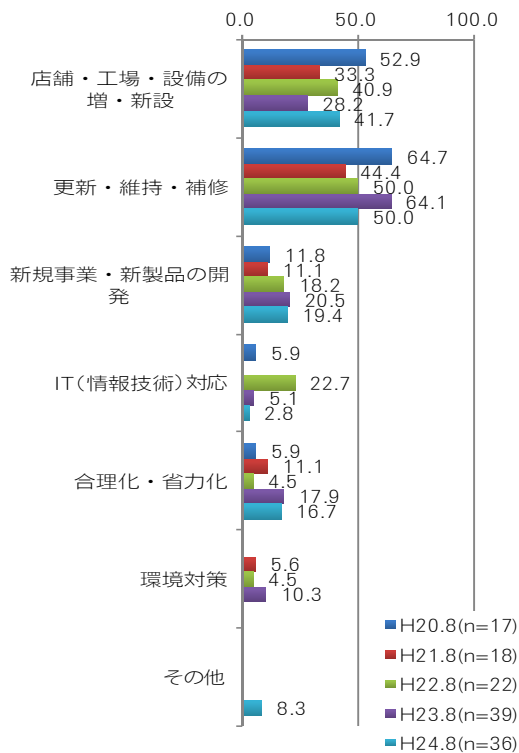
図表 38 最上「設備投資の目的」の推移(複数回答%)



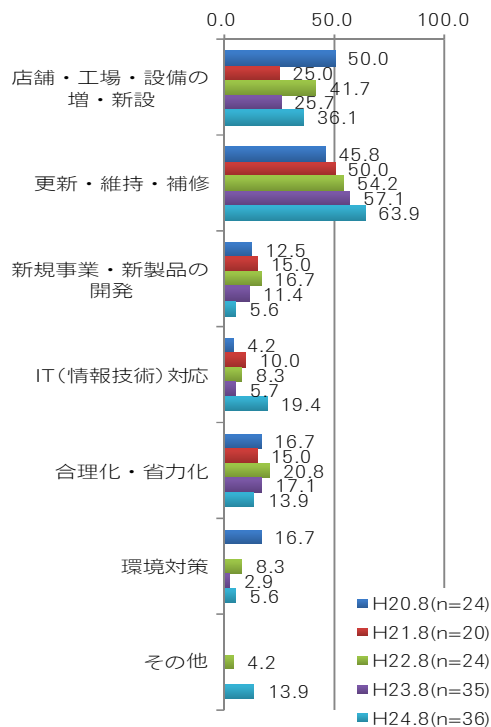
図表 39 置賜「設備投資の目的」の推移(複数回答%)



図表 40 庄内田川「設備投資の目的」の推移(複数回答%)



図表 41 庄内飽海「設備投資の目的」の推移(複数回答%)



<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>

(サンプル数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	27	40	57	59	183
村山北部	22	42	18	20	102
最上	22	19	12	18	71
置賜	23	34	28	20	105
庄内田川	33	41	34	35	143
庄内飽海	38	37	36	40	151
合計	165	213	185	192	755

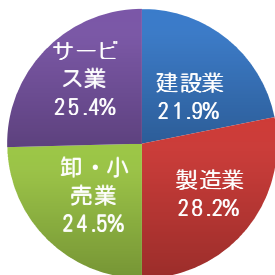
(回答数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	19	25	38	44	126
村山北部	15	23	13	9	60
最上	16	16	9	7	48
置賜	12	22	14	11	59
庄内田川	23	31	19	17	90
庄内飽海	23	28	26	22	99
合計	108	145	119	110	482

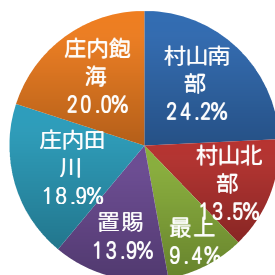
(回答率：%)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	70.4	62.5	66.7	74.6	68.9
村山北部	68.2	54.8	72.2	45.0	58.8
最上	72.7	84.2	75.0	38.9	67.6
置賜	52.2	64.7	50.0	55.0	56.2
庄内田川	69.7	75.6	55.9	48.6	62.9
庄内飽海	60.5	75.7	72.2	55.0	65.6
合計	65.5	68.1	64.3	57.3	63.8

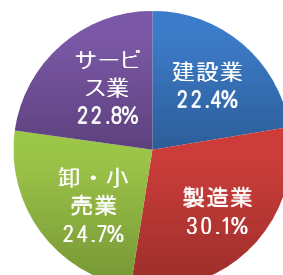
サンプル割合(業種別)



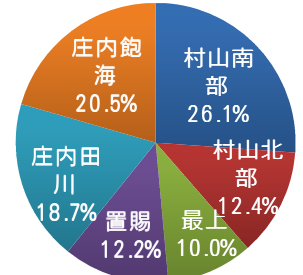
サンプル割合(地域別)



回答社割合(業種別)



回答社割合(地域別)



<参考資料Ⅱ：調査の概要>

● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した

● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査(一部FAXを利用)

● 調査期間

平成24年8月1日(水)～17日(金)

● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最 上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置 賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について3肢択一方式を採用している。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている

項 目	選択肢 (択一方式)
自社の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
業界の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
売上高 (建設業を除く)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
完成工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
営業利益 (共通項目)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
人員や人手 (共通項目)	1. 足りない 2. ちょうどよい 3. 余っている
資金繰り (共通項目)	1. 楽になった 2. さほど変わらない 3. 厳しい
原材料等の仕入価格 (製造業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
製(商)品の仕入価 (卸・小売業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
在庫状況 (製造業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
手持工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った

(注)各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ3肢択一方式を採用している

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれD I 値を算出する。D I 値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、算出方法は次の通り

例)自社の業況D I 値

$$= (「1. 良い」と回答した企業の割合) - (「3. 悪い」と回答した企業の割合)$$

たとえば「自社の業況D I 値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向(良くなっているか、悪くなっているか)についても分かる

ちなみに、他のD I 値についても同様に、選択肢「1. 」(表 4「選択肢」欄をご参照のこと)を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する

<お知らせ>

F S N会員専用ホームページ (<http://www.bb-town.jp/cgi-bin/fsn.cgi>)にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちらも是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ (<http://www.f-ric.co.jp/>)「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

<お問い合わせ先>

株式会社フィデア総合研究所

研究開発グループ 熊本 均 / 高橋 富偉

〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F

TEL : 023-626-9017 FAX : 023-626-9038

E-mail : kenkyuu@f-ric.co.jp

URL : <http://www.f-ric.co.jp/>